

コンピュータ支援による語学学習(略称CALL)に関するレポート

ーアンケート回答を中心にー

城 戸 法 政

On the Results of Questionnaires concerning CALL System Lessons

Norimasa KIDO

平成9年度からCALLシステムによる英語学習を行ってきたが、このレポートは、4ヵ年にわたるこの学習に対する受講生のアンケート集約である。従来の授業と比べて、その興味度は高く、96%の学生が高く評価すると回答している。ローマ字入力によるタイピング演習からの導入は、21世紀はパソコン操作が必須条件とみたからである。個別学習がメインであることの弊害を、学生相互、教師・学生間のコミュニケーションで取り除き、どのように変化をもたせるかが今後の課題である。

I. はじめに

情報処理教育施設ができて、平成9年度から英語教育にCALL (Computer Assisted Language Learning) を導入した。従来の文法訳読式の学習から音声・映像・文字による英語授業への模索の手段と考えたからある。教材は内田洋行のMICRO-ENGLISHを使用した。

MICRO-ENGLISHの学習内容

映画の鑑賞……動画を見ながらの内容の確認、語句解説等。

台本の作成……動画視聴後、英文で内容の要約、台本作成。

語彙の練習……学習時に出てきた単語の理解度チェック等。

英文タイプ……キーボード基本操作から、スピードタイプ、オーラルタイプの練習。

英文の読解……動画・音声で英文を聴き取った後、内容理解度チェック問題演習。

英文の速読……文章を表示させ、スピードを変えながら読み取った後、問題演習。

英文穴埋め……動画・音声で英文を聴き取った後、空所補充問題演習。

英語英作文……英文や和文を表示しながら、英文和訳、和文英訳演習。

英文書取り……動画・音声で英文を聴き取った後、英文の書取り演習。

Ⅱ. 本学での取り組み方

学生の現状を見ると、我流のタイピングであり、これからのIT（情報技術）時代に備え、キーボード操作が学習第一歩と位置づけた。入力方法は、ローマ字、ブラインドタッチを第一目標とし、授業開始から、15分～20分をめどに、正確に迅速にタイピングができるように、キーボード操作から、スピードタイピングに移行し、本来の英語学習にはいるというプロセスをとった。

タイピング練習の上達レベル

レベル	above A 段階	A 段階	B 段階	C 段階
1 分間の字数	51 以上	41 以上	31 以上	21 以上
エラー数	29 以下	39 以下	49 以下	59 以下

第一目標のブラインドタッチについては、すぐ成績結果が表示されることから、本年度受講学生の例を示すと、授業開始から、8 週目くらいから、おおかたの学生が、C 段階に上達し、20 週を超えると、受講生20 名中、A 段階 5 名、B 段階 7 名、C 段階 8 名といったところが現状である。30 週で一年を終える頃には、全員が、最低 B 段階に達し、学生の評価は後記のアンケートの通りである。

Ⅲ. 英語学習のプロセス

毎時間、15分～20分のタイピング演習から始め、学習内容については、前に掲げた項目から、適当な内容を選び、学習画面に写し出して学習する方法をとった。映像を見て、どんな会話が交わされているか、大まかに把握し、動画視聴後、英文で単語の理解度チェック、内容理解度を5項目の英文の質問によるチェック、動画・音声で英文を聴き取った後、空所補充問題演習。英文や和文を表示しながら、英文和訳、和文英訳で作業を終わるプロセスをとった。

Ⅳ. CALL に関するアンケートとその結果

（平成9年から平成12年まで、毎年同一内容で実施）

- ①本年度4月からコンピュータを利用した英語の授業をおこなってきましたが、従来の英語の授業と比べて、どのような印象をもちましたか。

	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年
1 全然面白くなかった	0 %	0 %	0 %	0 %
2 面白くなかった	6	0	6	6
3 まあまあだった	53	36	24	31
4 面白かった	29	50	46	57
5 とても面白かった	12	14	24	6

コンピュータ支援による語学学習（略称 CALL）に関するレポート

②コンピュータを利用した英語の授業について

(A) 使用した教材の内容について

難易度

	平成 9 年	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年
1 易しすぎた	0 %	5 %	0 %	0 %
2 易しかった	12	0	6	6
3 まあまあだった	76	68	47	82
4 難しかった	12	27	47	12
5 とても難しかった	0	0	0	0

効果度

	平成 9 年	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年
1 全く効果なかった	0 %	0 %	0 %	0 %
2 効果なかった	29	5	6	6
3 まあまあだった	35	27	29	12
4 役に立った	29	68	53	82
5 とても役に立った	6	0	12	0

興味度

	平成 9 年	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年
1 全然面白くなかった	0 %	0 %	0 %	0 %
2 面白かった	12	0	18	6
3 まあまあだった	18	23	12	12
4 面白かった	59	59	58	70
5 とても面白かった	11	18	12	12

(B) マウスやキーボードを使ったパソコンによる語学学習について

操作性

	平成 9 年	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年
1 とても難しかった	0 %	5 %	6 %	6 %
2 難しかった	24	23	53	38
3 まあまあだった	41	29	29	44
4 簡単だった	35	29	12	12
5 とても簡単だった	0	14	0	0

集中度

	平成 9 年	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年
1 とても退屈だった	0 %	0 %	0 %	0 %
2 退屈だった	24	0	12	12
3 まあまあだった	29	23	29	18
4 集中できた	35	72	41	70
5 とても集中できた	12	5	18	0

効果度

	平成 9 年	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年
1 全く効果なかった	0 %	0 %	0 %	0 %
2 効果なかった	6	0	6	0
3 まあまあだった	35	18	24	31
4 役に立った	53	82	35	38
5 とても役に立った	6	0	35	31

(C) パソコンで学習するリーディングについて

効果度

	平成 9 年	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年
1 全く効果なかった	0 %	0 %	0 %	0 %
2 効果なかった	6	5	0	0
3 まあまあだった	18	31	53	50
4 役に立った	70	59	41	32
5 とても役に立った	6	5	6	12

興味度

	平成 9 年	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年
1 全然面白くなかった	0 %	0 %	0 %	0 %
2 面白くなかった	12	5	18	6
3 まあまあだった	18	23	18	38
4 面白かった	64	63	52	25
5 とても面白かった	6	9	12	31

コンピュータ支援による語学学習（略称CALL）に関するレポート

(D) 英文タイプ演習について

効果度

	平成 9 年	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年
1 全く効果なかった	0 %	0 %	0 %	0 %
2 効果なかった	12	5	6	0
3 まあまあだった	6	23	6	6
4 役に立った	64	45	41	50
5 とても役に立った	18	27	47	44

興味度

	平成 9 年	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年
1 全く面白くなかった	0 %	0 %	0 %	0 %
2 面白くなかった	0	5	0	6
3 まあまあだった	47	18	35	12
4 面白かった	35	59	35	38
5 とても面白かった	18	18	30	44

V. アンケートの結果分析

4年間のCALL学習の結果、従来の英語の授業と比べて「まあまあだった」「面白かった」「とても面白かった」と回答した学生が平均94%。（「面白くなかった」という回答はわずか6%で、人数にして1名）このことから、CALLが従来の英語の授業の問題点解決に大きく貢献していて、学生が、この試みを歓迎しているとみてよからう。

(A) 使用した教材の内容について

難易度 92.75 効果度 88.25 興味度 91

*難易度に関しては、「易しすぎた」の回答率を除外した、過去4年間の平均である。

「難しかった」という印象に比べて、効果度が88.25ということは、その意味が理解しがたいので、もっとよく検討してみる必要があるようだ。

(B) マウスやキーボードを使ったパソコンによる語学学習について

操作性 61.25 集中度 88 効果度 97

*キーボード操作は、ピアノの訓練ができている学生は、比較的上達が早いようだ。

集中度、効果度の評価が高いのは、自信を持ってきた証拠である。

(C) パソコンで学習するリーディングについて

効果度 95.75 興味度 89.75

*学習能力については、かなりの学力差があったが、タイピング操作が上達するにつれて、学習意欲も高まり、学生の自信が表れていると思われる。

(D) 英文タイプ演習について

効果度 94.25 興味度 97.25

*ブラインドタッチでローマ字入力ができるようになって、卒業論文も打てたし、卒業後のパソコン操作に自信が持てて、大きな収穫だったと、受講者のほとんどが高く評価している。

(E) CALLシステムを使った授業が「面白い、とても面白かった」と答えた人は、どこが面白いと思うか、また、どういう点が最も効果的であると思うか。

(「面白い」88% 「とても面白い」6%)

* (代表的なものを挙げれば)

- ・タイプ演習はすぐ成績結果が表示されて、上達度がはっきり出て、とても効果的であったし、自分にあったスピードで学習できた。
- ・タイプ演習の効果で、卒論作成に大いに役に立った。
- ・英語の正しい発音が身についた。
- ・映像が出てくるので、楽しみながら、内容を理解することができた。
- ・日常生活における会話の流れをゆっくりと学習できた。
- ・イントネーションが自然と身についた。
- ・CALLは個別学習だから、自分のペースに合った学習展開ができて、充実した授業だった。

(F) パソコンを使った授業で、改善してほしいと思った点を挙げてください。

* (代表的なもの)

- ・学生同士、先生と学生間のコミュニケーションがあったほうがよい。
 - ・リスニングのテストがあったほうがよい。
- *この結果から、CALLの利点は別として、個別学習に終始するのではなくて、教師側から解説やら、学生同士の会話練習を挿入することで、授業に変化を持たせるのに、どのようなsituationが考えられるか、これからの課題にしたいと思う。